

(様式5)

令和6年度 富山商業高等学校アクションプラン —1—	
重点項目	学習活動
重点課題	教科指導の充実と確かな学力の向上
現 状	・生徒の学習意欲や学習理解度に差が見受けられる。そのため、各教科において指導内容や指導方法の改善を図るとともに、生徒に意欲をもって授業に取り組ませ、確かな学力を身に付けさせることが必要である。
達成目標	①指導力の向上を意識した授業改善 ②課題設定力・解決力を身に付けさせる
方 策	・他の教員の授業を、各学期3回以上参観する。 ・生徒の学習に対する取り組み方や授業内容の理解度、満足度に関する状況調査をアンケート方式で行う。授業内容の理解度80%以上 ・自己評価シートで項目ごとにチェック。課題解決力6項目で、S・A評価が全体の50%以上 ・各学期に互見授業週間(年3回)を定め、各週間に他の授業を各3回以上参観する。 ・参観者は、互見授業シートを記入し、授業者及び自らの授業改善に資する。 ・各科目学習アンケートを取り、生徒の授業への取り組み具合を確認する。 ・期末考査(年3回)後に、「課題設定力・解決力」6項目(コミュニケーション能力、自主性、協調性、粘り強く挑戦する心、創造性、確かな学力)について、現在のレベルをチェックし、評価の具体的な根拠を記入し、提出。
達成度	互見授業評価シート回収率(47名×3回 141件) 1学期 87件 62% 2学期 59件 42% 自己評価シート課題解決力(S・Aの割合) 1学期 → 2学期 昨年度2学期 コミ能力 67% → 71% +4% (71%) 自主性 67% → 71% +4% (68%) 協調性 81% → 84% +3% (81%) 挑戦心 75% → 79% +4% (75%) 創造性 61% → 65% +4% (62%) 確学力 50% → 56% +6% (56%) 教科別学習アンケート(2学期)理解度のみ抜粋 各科目5段階で評価(5:理解、4:概ね理解の割合) 1学年 68% 2学年 76% 3学年 78%
具体的な取組状況	・互見授業では、ICTを利用した授業への取り組みが多くみられ、新しい授業のスタイルへの定着が図られている。 ・学習アンケートは、各学期、全学年6項目5段階全教科で実施。 ・新学習要領に基づき、観点別評価を自己評価の形で生徒にも教科ごと3段階で実施予定。(3学期末) ・学期ごとの変動等を教科の指導に役立てられるようにしたい。 ・課題解決の自己評価については、1学期では「確かな学力」は50%であったが、2学期では56%となり、学習への手ごたえを感じる生徒が増加している。(昨年度も同様の数値、増加率)3学期には、検定学習もあり、さらにポイント数が上昇することが期待される。
評 価	C 1, 2 学期とも互見授業評価シートの回収目標を大きく下回った。学習アンケート全学年全教科実施、理解度は80%に達しなかったが、自己評価は6項目中5項目で60%越えがみられた。
学校関係者の意見	・互見授業の回数は目標に達しなかったが、教材研究に熱心に取り組む姿勢は見られた。 ・学習アンケートでは、自己評価は5項目で60%を越え、成果がみられた。
次年度へ向けての課題	・全学年で観点別評価に移行していくため、学習アンケート結果を分析し指導に生かす努力が必要となる。 ・ICT利用は定着してきたが、今後もわかりやすい授業への授業改革を継続していくことが必要である。 ・これまでの互見授業に加えて、さらにお互いを研鑽していくシステム作りが必要となる。 ・互見授業アンケートの回収率低下を受けて、実施回数、実施方法や周知方法を見直す必要がある。

(様式5)

令和6年度 富山商業高等学校アクションプラン —2—		
重点項目	特別活動	
重点課題	部活動の活性化と競技力の向上	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 本校は運動部17、文化部11の計28部が設置されており、全全部活動制である。 運動部・文化部ともに多くの部が、県大会優勝や全国大会入賞を目指して熱心に部活動に取り組んでいる。昨年度の全国大会出場者は139名(19%)、北信越大会出場者は241名(34%)で、全国大会は目標にわずかに届かなかったが、北信越大会は目標を大幅に超えることができた。 部活動個人目標カードを用いて各個人の目標を立てさせた。「達成できた」「まあまあ達成できた」と答えた人は71%と目標をわずかに上回った。 	
達成目標	① 部活動の個人目標達成度 (個人目標達成者数÷全校生徒数×100)	②全国大会・北信越大会出場生徒の割合 (大会出場者人数÷全校生徒数×100)
	70%以上	全国20%以上 北信越30%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 3年間使用の部活動個人目標カードを作る。各年度で目標を立て、達成するための方策を考えさせ、結果目標が達成できたかどうかを振り返らせる。そして、次年度に向けて「心身の健康・人間関係能力・責任感・創造性・チャレンジ精神・リーダーシップ・フォロワーシップ」を意識させながら反省等を記入させ、生徒の部活動に取り組む意識を高める。 成績目標だけでなく生活態度の目標も立てさせ、それらが関連しあっていることを意識させ、達成のための方策を考えさせる。 各部活動を円滑に運営するために、適宜、部顧問会議やキャプテン会議を開き、諸問題について検討し、改善を図る。 	
達 成 度	<p>① 4月に立てた目標(競技成績、検定、人間性等)を達成できたかどうか、1月に調査した。その結果、「達成できた」「まあまあ達成できた」と答えた人の割合は、66%と目標を達成することができなかった。</p> <p>② 全国大会出場者 116名(16%) 北信越大会出場者 273名(39%) ※実数 全国大会は目標に届かなかったが、北信越大会は目標を達成することができた。</p>	
具体的な取組状況	<p>① 部活動の個人目標達成度は、昨年度よりも低い傾向だった。内訳を見てみると、今年度全国大会に出場した部の66%は目標達成度が低い傾向にある。これは多くの部員が高い成績目標を掲げていることが理由である。逆に目標達成度が70%を超えている9部の中で、全国大会に出場できていない部の割合は77%であった。つまり、達成可能な目標を掲げている部員が多いと考えられる。</p> <p>② 今年度は、28部中15部が全国大会出場を果たした。中でもワープロ部は全国大会団体・個人2位と素晴らしい成績を残した。他にも陸上競技部が5,000m 競歩で8位、バドミントン部が団体ベスト16、個人ベスト8と健闘した。</p>	
評 価	<p>C</p> <p>① 全国大会常連の部活動の生徒は高い目標を掲げているため達成率が下がり、その他の部活動の生徒は達成可能な目標にしたため達成率が上がったと考えられる。</p> <p>② 各部活動顧問の先生方の献身的な取組みにより、目標を達成できたと考えられる。</p>	
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の取り組みは、コロナ前に近づいており、徐々に目標を達成しつつある。 本校の部活動の在り方を社会の情勢に合わせて再考する時期である。 	
次年度へ向けての課題	<p>最近の傾向として、高い成績目標を掲げる生徒は徐々に少なくなっていると感じる。達成できなかった時の予防線を張っているのではないか。まあこれくらいで良いかと妥協している生徒が増えていると考えられる。高い目標を掲げて、その達成に向けて努力を惜しまないことが大切だということを伝えていきたい。</p>	

(様式5)

令和6年度 富山商業高等学校アクションプラン —3—	
重点項目	学校生活
重点課題	<ul style="list-style-type: none">・交通事故の減少への意識向上と自転車乗車時のヘルメットの着用（全校生徒の10%）・風紀委員会の各班の活動の活性化・制服を正しく着用する生徒の育成
現 状	<ul style="list-style-type: none">・県内全域から通学しているため、慣れない通学による自転車による交通事故が起きている。昨年度の交通事故は22件で、重大な事態に繋がる危険性を秘めている。また、自転車の乗車マナーについても、地域からご指摘を受けることもある。・自転車乗車時のヘルメットの着用が努力義務化されたが、着用してくる生徒は少ない。・令和6年度入学生より新制服となった。旧制服と新制服が混合しているため、明確なルール作りと制服の着用ルールを徹底する必要がある。・風紀委員の活動が活発化してきたが、まだ自主的な活動までには至っていない。・風紀委員会のスマートフォン等や自転車のマナー向上啓発運動がまだ浸透していない。
達成目標	制服を正しく着用する意識を高める（アンケート回答：いつも正しく着用できた、ほぼ正しく着用できた、を合わせた割合70%以上）
	交通事故件数の減少 自転車乗車時のヘルメット着用、全校生徒の10%以上
	風紀委員会（班活動を含め）年間8回以上実施し、風紀委員の活動を活発にする
方 策	<ul style="list-style-type: none">・4月に自転車点検、5月に交通安全指導講話を開催し、規範意識やマナーの向上と自転車乗車時のヘルメット着用を呼びかける。・風紀委員が警察署や関係機関と合同で、自転車施錠やマナー向上の街頭呼びかけを行う。・毎月服装指導を実施し、生徒に身だしなみについて考える機会を与え、主体的に正しく着用できる力を育む。・制服着用アンケートを実施し、身だしなみに関する意識を高め、本校に求められている力を主体的に身につけていけるように努める。
達成度	<ul style="list-style-type: none">・新制服についてアンケートを実施 富商ニュールックスタイルに合わせて、正しく着用できた、ほぼ正しく着用できた割合 1学期97% 3学期91.9%・交通事故件数は13件（昨年同時期20件）・自転車ヘルメット着用率 1学期10%、3学期18.4%・風紀委員会 10回（全体会4回 班活動・校外活動 6回）
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none">・年2回、制服着用についてアンケートを実施 富商ニュールックスタイルの定着を図った。・風紀委員会の活発化と規範意識の向上1 自転車係：自転車小屋での自転車施錠点検、ステッカー確認、富山西警察署と交通安全指導。2 ポスター係：「ヘルメット着用」「富商ニュールックスタイル」に関するポスターを作成・掲3 掲示板係：風紀委員会からのお知らせを作成し「掲示板」の名前でクラス掲示した。・外部講師等による講和 5月交通安全指導講話、12月「高校生自転車フォーラム・イン富商」
評 価	B <ul style="list-style-type: none">・富商ニュールックスタイルを理解した着用意識は9割以上と高い水準だった。・自転車事故件数は減少したが、加害事故が発生した。・充実した風紀委員会の活動ができた。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none">・風紀委員会の活動が活性化し、生徒自身が様々な意識を高められた。・交通安全やSNS利用の規範意識など、継続した指導が重要である。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none">・風紀委員会の活動により「あるべき富商生の姿」を、主体的に実現する。・安全な登下校のための指導を徹底し、生徒が加害者にも被害者にもならない意識を抱かせる。・自転車乗車時のヘルメット着用率100%を目指す。

(様式5)

令和6年度 富山商業高等学校アクションプラン —4—		
重点項目	進路支援	
重点課題	<ul style="list-style-type: none">・社会や職業についての幅広い知識・理解とともに職業観・勤労観を育む。・自己理解を深めさせ、一人一人が能力や適性に応じた進路選択ができるよう支援する。・自分の考えや思いを的確に表現できる文章記述力を系統立てて指導する。・個に応じた組織的・計画的な取り組みを通して、より効果的な進路支援を行う。	
現 状	<ul style="list-style-type: none">・職業観・勤労観の育みが遅い生徒は、自己の進路希望・進路目標の確立も遅い傾向がある。・生徒自身の自己理解が不十分な生徒は、適性や能力に適合しない進路選択をする場合がある。・近年の大学等募集人員や受験倍率の変化、求人数増加による就職希望先の選択肢拡大により、生徒の安易な進路選択が中途退学や早期離職などにつながらないよう、生徒自身の自己理解を深めさせる配慮がより一層重要になってきている。	
達成目標	①小論文における記述能力	②第3学年生徒の進路満足度
	小論文模試の評価向上	97%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none">・新聞記事の要約や自分の意見をノートにまとめさせ、日頃から観察力や分析力を鍛え、思考を文書化する表現力を育成する。・国語科と協力して国語の授業を活用し、小論文記述力を学年進行で向上させる方策を実施する。・1, 2年は年間3回、3年は年1回の小論文模試を実施する。・外部講師によるガイダンスを実施し、幅広い知識や考え方を養う。・生徒を指導する教員に対しても小論文指導のためのガイダンスを実施し、教員の指導力向上を図る。・小論文模試では、「説得力」「構成力」等の評価の向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none">・ガイダンス等を計画的に実施し、より早い段階から具体的に自らの進路を考えさせる。・進路適性検査等により、自己の能力・適性を考える機会とし、適切な進路選択を行うよう指導する。・進学就職後の自己実現を見据えた生徒の進路実現に向け、丁寧な進路指導に取り組む。・生徒の進路志望状況をできるだけ具体的に把握するとともに、家庭との連携を図るため、進路選択に必要な適切な情報を提供できるよう資料の充実を図る。・進路実現を目指す生徒に対して、全教員による面接指導や個別学力補充の場を提供する。・3年時に大きな進路希望変更がある場合、十分な話し合いと保護者との緊密な連絡を行う。
達成度	分析力や思考力の向上を養うとともに、自己理解や主体的なキャリア選択の意識化が図られた。	99.1%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none">・志望理由書の作成を、2年次から実施。・2学年研修旅行を活用し、キャンパスレポートを作成し、社会との関連も考える視点を育成した。・学期毎に小論文模試と事前事後学習を設定。・自己理解と将来への具体的展望の確立。・新聞記事を活用し、時事問題への関心を高めた。	<ul style="list-style-type: none">・進学先、就職先の新規開拓と維持。・進路ガイダンスの内容改善。・進路指導模試の事前事後指導強化。・生徒や保護者への資料提供方法の見直し。・大学入学共通テストの受験指導を行い、大学での円滑な学習に資するよう指導を実施した。
評 価	B	全教職員の協力により、面接や小論文など生徒進路実現への手厚い指導ができた。年々指導の効果を感じる。進路満足度は近年上昇しており今年度は0.8%上昇。満足していない生徒はわずか2名のみであり、初めて99%を超えた。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none">・面接や小論文などの個別指導が、生徒の進路実現につながった。・生徒との面談を重視した結果、進路満足度は上昇した。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none">・適切な進路指導による生徒のより良い進路実現と、新しい進路先での更なる自己実現の両方を目指した学校全体による指導体制の構築を図る。・生徒進路意識の早期確立と、より効果的な進路指導の充実を図る。	

(様式5)

令和6年度 富山商業高等学校アクションプラン —5—													
重点項目	学習活動												
重点課題	1 授業の充実 2 検定・資格取得の向上												
現 状	全商検定 1級3種目以上合格者 (第3学年) 令和4年度 80名 (29%) (3学年7クラス) 令和5年度 86名 (37%) (3学年6クラス) 令和6年度 90名 (38%) (3学年6クラス) 全商検定 簿記2級合格者 令和4年度 146名 (60%) (1学年6クラス) 令和5年度 182名 (80%) (1学年6クラス) 令和6年度 154名 (71%) (1学年6クラス)												
達成目標	1 授業の充実						2 検定・資格取得の向上						
	生徒の授業満足度 80%以上						全商検定1級3種目以上合格100名以上 (約40%) 全商簿記2級合格 170名以上 (約70%)						
方 策	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト学習による探究的な学びとデザイン思考を取り入れた学習指導を実施。 学年統一実施の課題テストによる、生徒の学習進捗状況の確認と指導。 2学期末考査後に検定対策の授業を毎日1時間設け、約2週間継続して実施。 検定試験直前期に7限目を設け、約3週間検定合格に向けた指導を実施。 熟練教師が若手の授業を参観し、週末に意見交換会にて指導力の向上に向けて取り組む。 生徒の記憶定着システム (モノグサ) による、検定学習に向けた隙間時間の活用や自宅学習での活用を促進。(自宅学習における一人一台貸与のタブレットを活用) 地域や企業、教育機関等、外部と連携した授業の拡大、充実を促進し、官学産連携による商品開発や金融教育を実施。 												
達成度	○授業満足度 (%)					1 全商検定1級3種目以上合格 (第三学年)							
	学年	1	2	3	全体	種目	3種	4種目	5種目	6種目	7種目	8種目	合計
	R5	94.7	93.9	96.9	95.2	R5	34	27	10	11	2	1	85
	R6	88.6	90.5	89.9	89.5	R6	39	18	22	9	1	1	90
						2 全商簿記2級合格 R6 154名 (約71.0%)							
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト学習による探究的な学びとデザイン思考の手法を取り入れた学習指導の展開。 検定試験の直前に、放課後質問教室を実施。 外部と連携した授業の充実を図り、商品開発や金融教育に関する授業を実施。 生徒の記憶定着システム (モノグサ) を活用し、隙間時間の活用を促進。 												
評 価	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒授業満足度は、3年生では目標を達成した。 全商検定1級3種目以上合格は、目標に近い結果となった。 全商簿記検定2級は目標に到達できなかったが、簿記に関する基礎基本の充足が図れた。 外部講師による金融教育を4回実施し、生徒たちは意欲的に学ぶことができた。 											
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト学習による探究的な学びが充実し、生徒に商業教育の魅力を伝えられた。 外部と連携し、キャリア教育やアントレプレナーシップの育成を図れた。 												
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> デザイン思考を取り入れ、問題解決力を高める授業の実施。 3年間を通して探究学習に取り組み、主体的に考え、学ぼうとする授業の実践。 授業と関連したTOMI SHOPの運営方法の再構築。 キャリア教育の充実やアントレプレナーシップの育成を通して、生徒に商業の魅力を理解させる。 商業を学び、その内容を活かせる力を育むために、応用力の基盤となる基礎的学力の向上を目指す。 												

(様式5)

令和6年度 富山商業高等学校アクションプラン —6—

重点項目	学習活動					
重点課題	生徒販売実習「模擬株式会社 TOMI SHOP」を通して社会人基礎力を育成する					
現 状	・社会人基礎力の中で「考え抜く力」の評価が低く、他の力より伸び幅も狭い。 ・令和5年度は、最終自己評価でレベル3（通常の状況で効果的に発揮できた）の生徒 ○課題発見力 30.2% ○計画力 25.8% ○創造力 25.2%					
達成目標	「考え抜く力」の能力要素である「課題発見力」の最終自己評価のレベル3の割合 A 40%以上 B 30%以上					
方 策	・商業科の授業で、ケーススタディを行い、「考え抜く力」を養う。 ・ケーススタディの内容に協力企業を取り入れ、課題解決策を具体的に考えられるようにする。 ・TOMI SHOPでは、生徒間でどのような方策で店舗運営したいか目標を定め、共有する。 また、クラス目標を明確にし、現実に応じた課題解決策を考えさせる。 各営業日の閉店後に、店長を中心としたミーティングを実施し、課題を共有する。 ・「TOMI SHOP」後では、事後の自分自身と他者を認める評価を行い、社会人基礎力の自己評価を記入し、自己評価を高める。					
達成度	・社会人基礎力の自己評価 TOMI SHOP事前評価(10月) TOMI SHOP事後評価(11月) 学年最終評価(12月) (年3回)	※右表は能力要素「課題 発見力」をレベル3と評 価した生徒の割合。				
			1年	2年	3年	
			事前	22.4%	24.4%	25.8%
			事後	39.9%	40.5%	40.0%
			最終	45.7%	41.3%	42.0%
具体的な 取組状況	・社会人基礎力の説明をHRで行い、「課題発見力」を身につけることでどのような成長が期待できるか、また仲間と協力することの大切さなどが伝わるようワークシートを作成した。 ・事後と最終評価の際、前回までの自己評価で自分が入力した内容を見直すことができるよう、振り返りシートを配付した。 ・事後評価では、同じ店舗で活動したクラスメイトとの他者評価を行った結果、生徒自身が気づけなかった成長を知ることができた。					
評 価	A	・TOMI SHOP ホームルーム（8月）を社会人基礎力のガイダンスと位置付けて実施したことで、生徒の社会人基礎力評価の動機付けができ、事後評価で大きくレベルを上げた。 ・最終評価においても全学年ともレベル3が持続、上昇した。				
学校関係 者の意見	・TOMISHOPは、コロナ前の規模で開催でき、生徒の課題解決力を育むよい研修となった。 ・社会人基礎力の内容と評価方法について理解を深められた。					
次年度へ 向けての 課 題	・社会人基礎力では、重点項目「課題発見力」だけでなく、「課題発見力」をきっかけに3つの能力のグループを超えて残りの11の能力要素も同時に伸ばすことができるような働きかけた。 ・3年生には、1学期末に社会人基礎力の自己評価を実施し、自己分析や面接時の自己RR作成にも活用できる資料とする。					

(様式5)

令和6年度 富山商業高等学校アクションプラン —7—

重点項目	特別活動	
重点課題	図書館を読書の楽しさを知る場、本や雑誌を活用して様々な探究活動を行う場とすることで利用促進を図る。	
現 状	<ul style="list-style-type: none">・活字離れが著しい生徒に対して、本を手にとったり、図書館を知ってもらったりする契機として、1学年図書館オリエンテーションで選書、貸し出し体験を行っている。読書へのきっかけ作りにはなるが、生徒自身が本を主体的に読む工夫や蔵書の充実が必要である。・タブレットを活用した授業へのシフトにより、図書館利用が減少している。探究的な学習活動に関連する蔵書を増やし、資料センターとして授業その他で活用しやすい図書館を目指していきたい。・デジタル媒体の浸透や生徒の多忙化の現状はあるが、読書を通して自らの生き方や社会のあり方を考える良書と出会える場が必要である。	
達成目標	① 生徒の読書への興味を喚起する企画の工夫	② 図書館の利用促進
	各学期3回	年間1冊以上図書館の本を借りる生徒の割合70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none">・1学年での図書館利用指導を充実させる。・担任、教科、進路と連携してLHでの進路学習や探究活動、小論文指導等で図書館利用を促進する。・「新刊図書案内」(図書部発行)や「図書館便り」(生徒図書委員会発行)内容を工夫し、生徒の図書館への興味関心を含め、生徒の読書に対する意欲を喚起する。・領域やテーマを決めて関連図書を展示したり、話題の図書を随時紹介したりして、生徒に図書館利用を促すような企画展示を積極的に行う。・図書や雑誌の購入にあたり、生徒や教員の希望を多く取り入れ、利用を促進する。・国語科、地歴公民科をはじめ各教科と連携して、読書感想文や小論文、レポート作成の際の図書館の活用方法や新聞の活用の仕方について理解を促し、図書館の日常的な利用を図る。・ICT教育に対応した図書館の役割を探り、授業で活用してもらいやすい環境整備に努める。	
達成度	① 企画展の刷新を行い、図書室内、および図書室入り口にコーナーを設けて1学期、3回以上の企画展示を行った。(計40回)	② 年間1冊以上の本を借りる生徒の割合54%(1年100%、2年38%、3年20%)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none">・1年生オリエンテーションにおいて、図書館の利用方法を説明した。・最新の話題や世界情勢など、新たなテーマで図書室内外に企画展示を行った。・新聞コーナーでは本校生徒や卒業生の活躍を紹介し、継続的な特集やキーワード解説を用いて生徒が興味・関心を抱く掲示物を作成した。・生徒図書委員会の活動を通して、図書館行事への関心を促した。・教科担当者の協力を得て、探究学習で図書室が活用され、図書の貸し出し増にもつながった。	
評 価	C	<ul style="list-style-type: none">・3学年の図書館利用を充実させることができなかった。・「親しみやすい図書館づくり」の取り組みにより、図書館が居心地のいい空間であると感じる生徒は一定数いる。・社会情勢やビジネスの最前線の雑誌や書籍を豊富に揃えたり、各新聞社の社説を準備したりすることで小論文学習や探究学習に役立った。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none">・生徒が図書館に親しみやすい企画展示を実践できた。・興味深い新聞コーナーを設置し、進路実現に役立ててもらった。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none">・本の平均貸し出し冊数の増加。・進路実現に関わる書籍や倫理や哲学などの書籍の充実を図る。・図書館利用率を高めるための企画展示をより充実させる。・ICT利用促進の流れの中で図書館が果たせる役割を考えながら、良書の選定、蔵書の整備、電子書籍の導入など環境整備を引き続き行っていく必要がある。	

(様式5)

令和6年度 富山商業高等学校アクションプラン —8—	
重点項目	学校生活
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が日常生活において災害を未然に防止し、自分と他人の生命を守り障害を防止し、安全な生活をおくるとともに、正しい理解と態度を養う。 教職員間で生徒理解を十分に図り、不登校、学校不適應、人間関係等の心理的な原因による体調不良等への対応や、相談、カウンセリング、専門医への繋ぎなど充実を図る。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済給付制度への加入は、任意であり掛け金や保護者の同意書も必要であるが加入率は100%を維持している。生徒や顧問、授業担当者への注意喚起をしているが、事故発生件数自体は減少が見られない。 様々な心理的な問題を抱え、不登校や保健室登校となる生徒がおり、教職員は生徒理解のためと教育相談スキルの向上が欠かせない現状である。
達成目標	① AEDや応急処置の講習会を実施
	② 半期ごとに研修会の実施
	年2回
	年3回(生徒1回、教職員2回)
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 生徒や顧問、担任、授業担当者へ、AED校内設置場所の認識を図るとともに、危険箇所や事故の起こりやすい状況等について注意喚起する。また、生徒自身が危険を予知したり回避したりできるように、応急処置講習会を実施する。 研修会を通じて、生徒理解のスキルアップをめざす。また、不登校、学校不適應、心理的な原因による体調不良等の生徒対応を円滑に行うため、担任や顧問、学年主任、保健厚生部、保護者が連携して問題解決に取り組み、スクールカウンセラーや医師などの専門家の効果的な活用を図りながら、確実な問題の解決にあたる。
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> 7月応急措置救急講習会(AED講習)年1回実施。 研修会年3回 11月生徒対象 6月、11月教員対象
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 運動部を対象に、「AEDと緊急時の応急措置」研修会を実施し、AEDの操作と緊急時の応急処置について周知することができた。 本校スクールカウンセラーを講師として、運動部対象に「コミュニケーションがパフォーマンスに与える影響」と題材して、心理的安定性とパフォーマンスについてわかりやすく説明していただきチーム内コミュニケーション向上を図った。 また、教員を対象として「人を伸ばす関わり方の技術」と題した講演も実施した。 初任者を対象に、支援コーディネーターと教育相談について、養護教諭と保健業務について理解を深めた。 事後の生徒、教職員アンケートでは、継続して研修会を開いてほしいという意見が多くあった。
評 価	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> 救急法の分野における常に新しい知識と技術の進化や応急方法の多様化に対応するため、また、いざという時に行動できるようにするため、講習会を通して体得することは貴重な体験となった。今後も、健康管理を意識させるよう指導啓発していきたい。 教職員自身の学びを高めるために研修会を継続していきたい。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラーを利用した講習会、研修会の内容の充実を図る。 健全な学校生活を守るための、教育相談を継続していきたい。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時に迅速に対応できる態度を育成するため、応急処置について継続して講習会を行う。また、心肺蘇生法だけでなく熱中症等の症状とその対処方法について理解する機会を検討する。 全教職員向けの研修会を、多様な生徒に対してきめ細やかな対応ができるように、スクールカウンセラー配置事業を活用計画して実施する。

(様式5)

令和6年度 富山商業高等学校アクションプラン — 9 —		
重点項目	その他	
重点課題	P T A活動への関心を高め、自主的・積極的な参加を推進する	
現 状	<ul style="list-style-type: none">・ P T A総会の出席率は、3学年の進路説明会を同時開催することで50%を超えている。・ 本校独自のP T A事業である「P T A視察研修」の満足度は90%を超える高水準であり、参加者も増加傾向にある。・ 生徒販売実習「TOMI SHOP」駐車場係への協力呼びかけも盛んに行っている。	
達成目標	① P T A定期総会時の説明による学校の教育方針に対する理解度	② P T A視察研修事業満足度
	90%以上	90%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none">・ P T A定期総会を土曜日開催とし、1・2年生の授業参観や3年生の進路説明会、学年別懇談会など、同時に行事を実施することで、保護者の日程的な負担を軽減し参加しやすい環境を整える。・ P T A定期総会では、学校長・進路指導部・生徒指導部による学校概況説明を実施し、学年別懇談会では、学年指導方針を説明してもらうことで、本校の教育方針に対する理解度をより深める機会とする。・ P T A視察研修先の事前アンケートと実施後の事後アンケートを継続実施し、その内容を踏まえて、より魅力ある研修会となるよう計画を立案する。・ P T A事業について多くの会員の参加を得られるように、行事内容を配布物と学校HPでの配信と両方で行う。・ 機会ある毎に情報メール受信の登録を促し、多くの保護者に情報配信できる体制を整える。・ 個人情報の扱いに留意しながら、QRコードによる出欠確認・意見集約を行い、保護者と教員の連携にスピード感を出す。	
達成度	総会の出席率は50%程度であったが、委任状を含め95%以上の承認である。	視察研修は満足度ほぼ100%であった。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none">・ 事業の連絡や情報配信については、メールやQRコードを用いて迅速かつ丁寧を心掛けて実施した。・ P T A視察研修は12名と少人数の参加であったが、富山大学、株式会社不二越、北陸電気工業株式会社を見学した。大変有意義な研修であるため、次年度はさらに多数の参加を促したい。見学の行き先などの候補について、保護者の方々からも建設的なご意見をいただいている。・ 生徒販売実習「TOMI SHOP」駐車場係に多くの保護者の方々の助力をいただいた。来年度はさらに多くの協力者を得て、生徒の活動を支援したい。	
評 価	B	今後、P T A行事について、多くのかたの積極的な参加を促したい。
学校関係者の意見	(入力不要)	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none">・ P T A主催行事には、教育活動の理解や進路意識への関心に関わる部分が多いため、継続して要望を取り入れ、理解度・満足度を意識した行事の実施に努めたい。・ 役員だけでなく、全P T A会員の皆様の行事参加を促したい。	

